

こんにちは!

村立東海病院



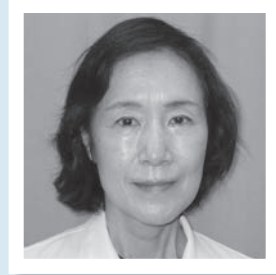
新任医師の紹介 & 大腸がん検診の勧め

新任 橋本 由美子 医師 を紹介します

1月から村立東海病院の内科に橋本 由美子(はしもと ゆみこ)医師が着任しました。内科の中でも消化器内視鏡検査を担当しています。

【橋本医師からのメッセージ】

幼い頃から、医師であった祖父に「医は仁術なり」「医学は日進月歩なり」と何度となく言い聞かされてきました。当院の基本理念の下、地域の皆さんのお役に立てるよう精いっぱい頑張りますので、よろしくお願い致します。今回は大腸がん検診の重要性について紹介しますので、皆さんぜひ、受診してください。



橋本 由美子 医師(内科)

医学博士、総合内科専門医、
日本消化器内視鏡学会指導医、
日本医師会認定産業医

【大腸がんは早期発見が大切です！】

大腸がん死亡率は年々増加傾向にあり、臓器別にみると、男女ともに2番目に多くなっています。その一方で、大腸がんは早期に発見できれば、90パーセント以上の方が治るといわれています。集団検診では、40歳以上の方を対象に「便潜血検査」による検診が広く行われています。大腸がんは40歳から増加し始め、50歳から急増しているためです。40歳以上の方が毎年、検診を受けることで、大腸がんは60～80パーセント減らすことができるという報告もあります。

【がん表面からのごく少量の出血を検出できる「便潜血検査」】

便潜血検査では、肉眼では認識できない、がん表面からのごく少量の出血を検出することができます。肉や魚など、食べ物の血に反応しないだけでなく、食道・胃・十二指腸などの上部消化管からの出血にも反応しません。そのため、便潜血検査が陽性の場合は大腸からの出血の可能性が高く、精密検査が必要です。

大腸がんの精密検査は大腸内視鏡で行われますが、大腸がんの30パーセント以上が便潜血検査をきっかけに発見され、そのうち70パーセントが早期がんの段階で発見されています。大腸がんが発見されたとしても、早期であれば内視鏡による治療で90パーセント以上の方が完治しています。しかし、陽性者のうち精密検査を受けている人は約半数以下に留まっている状況です。

【大腸がん検診を受けましょう！】

40歳以上の方は集団検診等で便潜血検査を毎年受け、陽性となった場合は必ず内視鏡検査を受けてください。さらに、大腸ポリープがある方や2親等内に大腸がんになった方がいる方、便秘や残便感等の症状がある方、痔からの出血がある方などは、検診の受診に関わらず、毎年、大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。

大腸がん検診を受けるには…

- ▽村(保健センター)で実施している集団検診に申し込む
- ▽人間ドック等で大腸がん検診が受けられる健診機関や医療機関に申し込む

※上記のほか、気になる症状がある方は医療機関にご相談ください。なお、当院では大腸がん検診のみの受診はできません。

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉総務課地域福祉推進担当(☎287-0848)